



東京歯科大学広報



井出吉信学長再任・新人事発令される

平成25年5月31日をもって任期満了を迎える井出吉信学長の後任の学長選任は、学校法人東京歯科大学寄附行為に定められた手続きに従い、法人理事会からの次期学長推薦の諮問を受け、平成25年1月11日(金)開催の第607回教授会において井出吉信現学長が推薦された。教授会の答申を基に、1月16日(水)開催の第680回理事会並びに第231回評議員会において井出学長の再任(2選)が決定された。

さらに、3月28日(木)開催の第682回理事会に

おいて、寄附行為施行細則第5条に規定する役職者として、副学長の石井拓男教授が現職に再任され、ご退職される柳澤孝彰副学長の後任には一戸達也教授、千葉病院長に井上孝教授、市川総合病院長に西田次郎教授、水道橋病院長に矢島安朝教授、大学院歯学研究科長に田崎雅和教授、歯科衛生士専門学校長に井上孝教授が新任された。

なお、任期は平成25年6月1日から平成28年5月31日までの3か年間である。

2013年6月

261号

本号の主な内容

・井出吉信学長再任・新人事発令される	1
・学長就任式挙行	3
・法人役員を選任、法人評議員の選任	12
・教職員への移転関係報告(14)	20
・平成26年度東京歯科大学入学試験要項	26
・平成24年度財務の概要	31

新役職者の就任に伴い、6月3日(月)午前10時より千葉校舎理事室において、金子 譲理事長から寄附行為規定の新役職者に辞令が交付された。

次いで、午後1時30分より学務役職者に対する辞令交付が第一会議室で行われた。井出吉信学長から石井拓男移転部会統轄部長以下25名に対し辞令が交付された。

なお、三病院関係の役職者に対しては、それぞれの病院において各病院長から辞令が交付された。



金子理事長を囲む新役職者：平成25年6月3日(月)、千葉校舎理事室

東京歯科大学学務等役職者

任命期間：平成 25年 6月 1日～平成 28年 5月 31日(定年退職者は当該日まで)

平成 25年 6月 1日

※診療科部長・診療科科長・教育主任の任命期間：平成 25年 6月 1日～平成 26年 5月 31日

(敬称略・順不同)

役 職	氏 名	役 職	氏 名
<寄附行為規定役職者等>		< 千 葉 病 院 >	
学 長	井 出 吉 信	副 病 院 長	櫻 井 薫
副 学 長	石 井 拓 男	副 病 院 長	柴 原 孝 彦
副 学 長	一 戸 達 也	副 病 院 長	末 石 研 二
千 葉 病 院 長	井 上 孝	保 存 科 部 長	齋 藤 淳
市 川 総 合 病 院 長	西 田 次 郎	小 児 歯 科 部 長	新 谷 誠 康
水 道 橋 病 院 長	矢 鳥 安 朝	口 腔 外 科 部 長	柴 原 孝 彦
大 学 院 歯 学 研 究 科 長	田 崎 雅 和	歯 科 麻 酔 科 部 長	一 戸 達 也
歯 科 衛 生 士 専 門 学 校 長	井 上 孝	補 綴 科 部 長	佐 藤 亨
		矯 正 歯 科 部 長	末 石 研 二
		放 射 線 科 部 長 代 行	井 上 孝
図 書 館 長	松 久 保 隆	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 科 部 長	矢 鳥 安 朝
副 館 長	櫻 井 薫	総 合 診 療 科 科 長	高 橋 俊 之
分 館 長	青 柳 裕	ス ポ ー ツ 歯 科 科 長	石 上 恵 一
分 館 長	加 藤 哲 男	摂 食・嚥 下 ハ ビ リ テー シ ョ ン 科 科 長	石 田 瞭
口 腔 科 学 研 究 セ ン ター 所 長	石 原 和 幸	地 域 歯 科 診 療 支 援 科	
副 所 長	齋 藤 淳	内 科 科 長	大 久 保 剛
教 養 科 目 協 議 会 幹 事	橋 本 正 次	臨 床 検 査 部 長	松 坂 賢 一
基 礎 教 授 連 絡 会 幹 事	石 原 和 幸	総 合 予 診 室 長	高 橋 俊 之
臨 床 教 授 連 絡 会 幹 事	末 石 研 二		
教 務 部 長	河 田 英 司	< 市 川 総 合 病 院 >	
副 部 長	望 月 隆 二	副 病 院 長	高 野 伸 夫
副 部 長	片 倉 朗	副 病 院 長	菅 貞 郎
副 部 長	山 本 仁	副 病 院 長	松 井 淳 一
副 部 長	平 田 創 一 郎	副 病 院 長	小 板 橋 俊 哉
学 生 部 長	佐 藤 亨	副 病 院 長	濱 野 孝 子
副 部 長	新 谷 誠 康	企 画 ・ 調 査 部 長	高 野 伸 夫
副 部 長	古 澤 成 博	歯 科 ・ 口 腔 外 科 部 長	片 倉 朗
副 部 長	森 田 雅 義	内 科 部 長	西 田 次 郎
副 部 長	杉 原 直 樹	消 化 器 内 科 部 長	西 田 次 郎
研 究 部 長	石 原 和 幸	循 環 器 内 科 部 長	大 木 貴 博
副 部 長	村 松 敬	神 經 内 科 部 長	野 川 茂
国 際 渉 外 部 長	阿 部 伸 一	呼 吸 器 内 科 部 長	寺 嶋 毅
学 会 ・ 学 術 出 版 部 長	小 田 豊	小 児 科 部 長	江 口 博 之
学 会 部 主 任	新 谷 誠 康	外 科 部 長	松 井 淳 一

役 職	氏 名	役 職	氏 名
歯 科 学 報 主 任	石 原 和 幸	脳 神 経 外 科 部 長	菅 貞 郎
欧 文 紀 要 主 任	水 口 清	心 臓 血 管 外 科 部 長	申 範 圭
研 究 機 器 管 理 部 長	吉 成 正 雄	整 形 外 科 部 長	白 石 建
環 境 安 全 管 理 部 長	川 口 充	リハビリテーション科 部 長	新 井 健
実 験 動 物 施 設 管 理 部 長	田 崎 雅 和	産 婦 人 科 部 長	高 松 潔
広 報 ・ 公 開 講 座 部 長	橋 本 貞 充	眼 科 部 長	島 崎 潤
臨 床 教 育 委 員 長	佐 藤 俊 亨	耳 鼻 咽 喉 科 部 長	中 島 庸 也
臨 床 研 修 委 員 長	高 橋 俊 之	泌 尿 器 科 部 長	丸 茂 健
総 合 講 義 ・ 実 習 委 員 長	平 田 創 一 郎	放 射 線 科 部 長	青 柳 裕
臨 床 基 礎 実 習 室 運 営 委 員 長	齋 藤 淳	皮 膚 科 部 長	高 橋 愼 一
健 康 管 理 セ ン タ ー 主 任	大 久 保 剛	形 成 外 科 部 長	田 中 一 郎
情 報 シ ス テ ム 管 理 委 員 長	河 田 英 司	麻 酔 科 部 長	小 板 橋 俊 哉
歯 科 医 学 教 育 開 発 セ ン タ ー 主 任	河 田 英 司	精 神 科 部 長	森 本 陽 子
		臨 床 検 査 科 部 長	宮 内 潤
		市川総合病院歯科教育主任	片 倉 朗
< 大 学 院 研 究 科 >		市川総合病院医科教育主任	寺 嶋 毅
教 務 部 長	東 俊 文	角 膜 セ ン タ ー 長	島 崎 潤
学 生 部 長	齋 藤 淳	リプロダクションセンター長	石 川 博 通
		副センター長	吉 田 丈 児
		口 腔 が ん セ ン タ ー 長	高 野 伸 夫
移 転 部 会 統 轄 部 長	石 井 拓 男		
		< 水 道 橋 病 院 >	
		副 病 院 長	山 下 秀 一 郎
< 歯 科 衛 生 士 専 門 学 校 >		副 病 院 長	高 野 正 行
副 校 長	松 坂 賢 一	総 合 歯 科 科 長	山 下 秀 一 郎
教 務 部 長	杉 山 哲 也	口 腔 外 科 科 長	高 野 正 行
学 生 部 長	久 永 竜 一	矯 正 歯 科 科 長	片 田 英 憲
予 防 処 置 室 長	高 橋 俊 之	小 児 歯 科 科 長	大 多 和 由 美
教 務 主 任	白 鳥 た か み	歯 科 麻 酔 科 科 長	福 田 謙 一
	(教務主任の任期) (平成25年4月1日～平成26年3月31日)	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 科 科 長	関 根 秀 志
		障 害 者 歯 科 科 長	大 多 和 由 美
		内 科 科 長	仁 科 牧 子
		眼 科 科 長	ビ ッ セ ン 弘 子
		水 道 橋 病 院 教 育 主 任	山 下 秀 一 郎

■学長就任式挙行

井出吉信学長の就任に伴い、平成25年6月3日(月)午後6時から千葉校舎講堂において学長就任式が開催され、その模様はテレビ会議システムにより水道橋校舎へ中継された。

式は、金子 譲理事長ご臨席のもと、教職員、臨床研修歯科医、大学院生等、多数の出席者が見守るなか、加藤靖明大学事務部長の司会により開式となった。金子理事長よりお祝いの挨拶が述べられた後、井出学長から今後の展望について説明がなされ、全ての職員は受け身の姿勢ではなく、それぞれの立場から積極的に意見を持ち寄り一体となって今後の大学の発展に尽力して欲しい旨の挨拶があった。次いで加藤大学事務部長から寄附

行為規定役職者の紹介が行われ、就任式は滞りなく終了した。



学長就任式で挨拶をする井出学長：平成25年6月3日(月)、千葉校舎講堂



ご挨拶

金子 謙

本日、6月1日から就任される学長、規定役職者の方々に辞令をお渡しいたしました。

学長はじめ規定役職者の方々は所轄の部署の責任者ですので、教職員の皆様におかれましては、それぞれ所属長の意向を良くご理解いただき、そして協力していただきたいと思っております。当面は移転事業の円滑な完了というのを目指していますが、井出学長が建設担当常務理事という立場で大変な努力を重ねた結果、本館の裏側のビルを購入することができ、2次計画に入る目途がつかしました。この計画は2年余りで完成させたいと思っております。

これから理事長として2つの事をお話してご挨拶とさせていただきますと思っております。

まず一つは学校法人東京歯科大学として、これからの中長期計画を立てたいと思っております。この中には稲毛の跡地の問題、そして歯科衛生士専門学校のこと、市川総合病院における口腔外科部門の充実、更には市川総合病院から提案されている看護学部の設置について検討を進めていくこと等が入ると思っております。この中長期計画は大学法人の経営の一環として行いたいと思っております。来年3月の理事会・評議員会に議題として提出し、4月には皆さまに提示ができると思っております。

現在の東京歯科大学に対する学外からの評価は大変高いものがございます。例えば、東京歯科は国家試験の突出した成績ということで高い評価をいただいております。つまり東京歯科大学は国家試験合格に導く教育をする信頼度の高い大学であるということです。大学の目的は国家試験に合格させることではなく、歯科医師という資格を通じて社会に貢献する人材を輩出することです。国家試験合格後の歯科医師の進路は臨床医あるいは研究者、その他行政等に進むなど限られていますが、大学は学生を臨床医あるいは研究者を育てるという意識が必要と考えます。具体的には教育環境において診療と研究の力のない大学は一流の大学ではないということです。東京歯科大学は教育に関して大きな効果を上げています。従って、次は一流の大学にふさわしい研究力、そして臨床力を皆さまの力で確保していただきたいと思っております。教育・臨床・研究の三つを合わせたバランスの良い大学が一流だと思います。東京歯科大学はこれまでの歯科医学教育の歴史で先導性を持って王道を歩いてきましたので、この度の新任、または再任の規定役職者の先生方は学長以下心を一つにして是非これを継承していくことにご尽力をお願いいたします。法人の理事長としても改めて、重責を担われる先生方にご尽力を宜しくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございました。



学長就任のご挨拶

井出 吉信

このたび6月1日付で、再度学長に就任させていただきました。さきほど金子理事長からお話がありましたとおり、今期における一番の事業は水道橋への移転で、後2ヶ月足らずで引っ越しに入りたいと思っております。皆さまにはご負担やご苦労をおかけいたしますが、よろしく願っています。

東京歯科大学は今までに3度移転をしましたが、移転をする度に大きく飛躍・発展を遂げておりますので、今回の水道橋への移転もこれをきっかけとして更なる飛躍をするものと期待しております。

時々、教職員の方たちから、「自分たちの所には色々な情報が入らない」、「何をやって良いかわからない」、「学校や自分の上司の方針や考え方が分からない」という話を聞くことがあります。自分の職場については皆様方が一番詳しいのですから、東京歯科大学の為に自分達で考え、そして意見を言ういただくのが大学にとって一番良いと考えております。指示を待っていても前には進みません。東京歯科大学は我々全員が一体となって築いていく大学ですから、自分達の職場を少しずつ良くするために、自分達で考えて、教育や研究を向上させていく必要があると思っております。以前私は、各講座を1日1回は回り、先生方と話す機会を持っておりました。今後は、講座だけではなく経理課や医事課など各部署の事務職員の方々とも色々な話をする機会を持ち、これからの3年間を務めていきたいと思っております。その時には是非色々なご意見を提案していただきたいと思っております。自分達の学校、自分達の職場は、自分達で良くしていくということが東京歯科大学の伝統です。

東京歯科大学は水道橋病院、千葉病院、市川総合病院と他大学には無い特色のある三病院を有しておりますが、これら三病院も今まで以上に情報や問題を共有して発展・向上にご尽力いただきたいと思っております。

3年間ではございますがご支援のほどをお願いいたしまして就任の挨拶とさせていただきます。宜しく願っています。

■副学長就任のご挨拶



石井 拓 男

この度、前期に引き続き副学長を拝命することとなりました。大変光栄なことであり、また重要な職務でありますので、気持ちを新たに引き締めて全力を尽くす所存であります。

本校は水道橋移転の最中にあり、歴史的な変曲点を迎えております。この時に副学長の席にあり、また移転を統轄するというこれまでに無い重い役目を頂いていることを日々実感しております。

東京歯科大学の教育は、歯科医師国家試験の成

績等で広く社会に認知されたように、今日までは順調に推移してきました。そこには、学生自身の努力と教員・大学職員の献身的な尽力がありました。また、震災の影響を受けながら、病院の運営も大過なく今日を迎えております。学生教育や病院運営が、移転を契機に足踏みすることなく、より円滑に遂行されることが望まれています。

一方で、歯科医師国家試験が難しくなる傾向があり、診療報酬の改定の面で病院運営においても楽観は許されない状況にあります。大学、ことに歯科大学歯学部に向けての国の施策は、文部科学省、厚生労働省ともに厳たるものがあります。残念ながら歯科界の現状、歯科大学の現状はそれを甘んじて受けねばならない一面のあることは確かであると思います。この時に、先人達がそうであったように、東京歯科大学が真つ当な姿であるよう努めることが何より大切なことかと思慮するところです。

■副学長就任のご挨拶



一 戸 達 也

平成25年6月1日付けをもちまして、副学長を拝命いたしました。おもな担当は教学および研究関係であります。大学の本業である、この極めて重要な職責をしっかりと果たし、本学の更なる発展にわずかでも貢献できるように最大限の努力をして参る所存であります。

3年前に水道橋病院長を拝命した際、「これからの3年間は、まさに移転の正念場の時です」と述べました。この3年間で、十分とはいえませんが、大学移転後の新しい水道橋病院のために必要な改革・改善を、教職員の皆様と一緒に実行して参りました。しかし、なお移転事業は完遂しておらず、今後の水道橋校舎二次計画や千葉校舎のあり方など、多くの検討すべき課題があります。このような中で、大学として最も重要な学生教育と

研究活動は一時たりとも疎かにすることはできません。全国29の国公立歯科大学・歯学部の中で、東京歯科大学が名実ともにわが国のリーダーとして燦然と輝き続けるためには、今よりもなお一層の努力が必要と考えております。教職員の皆様におかれましては、大学にとって最も重要なカスタマーは学生であることを今一度思い起こしていただき、一丸となって東京歯科大学のためにご尽力いただきますようお願いいたします。皆様のご意見に耳を傾けながら、また井出吉信学長・石井拓男副学長のご指導をいただきながら、副学長の職務を果たして参りたいと考えております。

法人主事につきましては、引き続き担当させていただきますことになりました。東京歯科大学全体の将来像を適切に描き、正確な情報を迅速に法人理事会・評議員会にお伝えして学校法人の健全な運営と発展に寄与できるように努力して参ります。

責任の重大なこれらの大任を同時に果たすことができるか危惧しておりますが、金子 譲理事長、井出吉信学長が示される本学の運営方針に則って、与えられた職責を全うしたいと考えております。教職員の皆様のご指導、ご鞭撻とご支援を賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。

■千葉病院長・歯科衛生士専門学校長就任のご挨拶

井上 孝

この度東京歯科大学千葉病院病院長を拝命しました。宜しくお祝い致します。病院長と言えば昔ながらに「優秀な臨床医」になるものと思っていました。しかし、いざ職についてみると、病院長は病院の「CEO (Chief executive officer)」的存在のようである、と感じるようになりました。6月1日に病院に入った時、教職員は、病院で皆一生懸命働いていますが、収支が合わない、患者が文句を言う、残業が減らない等、皆がピリピリしている感じが特に気になりました。私は、職場は楽しくなければいけないと思っています。その為には、皆が自分の仕事、立場をリスペクトし、そして他人の立場、仕事を尊敬することが重要であると考えています。

そして、水道橋移転と言う大事業の中で、千葉病院から、多くの講座の教員を送りだし、千葉病院に来院する患者に迷惑をかけず、今以上に医療サービスに徹し、千葉が混乱することなく、かつ確固たる地域密着医療を充実させるか、そして将来構想を作り上げることも重要であろうかと思えます。

前職の大学院研究科長が、全くの研究主体の仕事であったのに対し、今回の職は、「歯科医師である前に人間たれ」の建学の精神を最大限に活かさなくてはならないものと思います。しかし、「歯科医師は科学者でなくてはならない」のモットーを忘れることなく、研究マインドを持ち続けるようお願いいたします。そして、信頼に基づくヒエラルキーを構築し、医療安全を考えた病院運営を行っていくつもりです。

同時に、歯科衛生士専門学校校長も拝命しました。介護の中でも、総合病院でも重要な地位を占める歯科衛生士を世の中に排出する大きな使命も与えて頂きました。歯科衛生士専門学校の学生が千葉病院の中で、楽しく勉学、研修し、流石は東京歯科の歯科衛生士だ、と言われるようなプロフェッショナルを育てていきたいと思えます。

■市川総合病院長就任のご挨拶

西田 次郎

この度、市川総合病院病院長を拝命し、その重責に身の引き締まる思いが致します。

市川総合病院は、平成4年に新築移転し、平成17年の100床増床により、現在では570床を有する市川市の地域中核病院に発展してきました。

一方で、最近では病院施設、設備の老朽化が少しずつみられるようになり、また病院組織の巨大化に伴い、各職域で様々な問題が出てきています。これらのことに対応するために、病院施設の改築・修繕とともに院内の組織改革を大胆に行っ

ていく必要があると考えています。

病院長就任に際し、実行していききたい運営方針が3つあります。(1)徹底した現場主義、(2)ボーダーレスな職場づくり、(3)スピードの重視です。各職場の抱える問題を現場の教職員と直接議論して解決策を導き出すためには、職域や職位といったボーダーを超えた院内横断的なチームを構築し、教職員が力を発揮できるような働きやすくなりやすい職場環境を作ることが必要です。上意下達だけでなく、現場からの意見を導き出し、裁量権を委譲することにより、効率的かつ迅速に物事を実行していききたいと思えます。

超高齢化社会を迎え、変革期にある歯科医療において、歯科医学と一般医学を臨床現場レベルで繋ぐことができる日本で唯一の医療機関である市川総合病院の果たすべき役割は今後ますます拡大すると思われれます。また、今年9月の大学本部の水道橋移転により、市川総合病院においても学生あるいは研修医のための教育環境を充実、強化す

る必要があります。

今後も東京歯科大学ならびに市川総合病院の発展のため、全力を尽くす所存ですので、関係各位

の皆様方の更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

■水道橋病院長就任のご挨拶



矢島安朝

この度、6月1日付けをもちまして、東京歯科大学水道橋病院長を拝命いたしました口腔インプラント学講座の矢島安朝でございます。もとより浅学非才で身に余る重責ですが、今後は水道橋病院の理念である「思いやりの心による医療」を念頭に、国民に信頼される病院運営に邁進して行く所存でございます。何卒、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

本年6月から水道橋病院は、従来の理念とともに新たな目標が追加されました。「患者中心の歯科医療」と「根拠に基づいた歯科医療」の2つを大きな柱とし、21世紀型歯科大学病院をめざしております。

明治39年、現在の地に東京歯科大学の白亜の校舎が完成した落成式において、後藤新平は、「この学校に職を奉ずるものは、血闘先生に負けなように、成功、不成功にこだわらず力を尽くすことを学んでいただきたい」と挨拶されています。本年の9月には水道橋に大学機能が移り、本学にとっての一大事業である第一期移転計画が完了いたします。しかし、これは大学の施設が新しくなり、器が変わっただけで、病院や大学の内容は、今後教職員の意識改革とともに新しく作り上げなくてはなりません。新しい革袋ができたのですから、中には新しい葡萄酒を入れなくてはならないわけです。この未来に向けた大切な時期に、後藤新平の言葉は、私たちに勇気と自信を与えてくれます。本学教職員に対し「失敗を恐れず、全力を尽くせ」という強いメッセージであると解釈します。

120年以上の歴史を持つ日本で最も古い歯科大学の、最も新しい大学病院が、21世紀型歯科大学病院といった高みをめざし、多くの皆さまから信頼していただけるようすべての教職員と協力し合って、誠心誠意精進してまいりますので、何卒よろしく願い申し上げます。

■大学院歯学研究科長就任のご挨拶



田崎雅和

平成25年6月1日に東京歯科大学大学院歯学研究科長を拝命いたしました。みなさまのご理解とご支援をいただきながら、大学院における研究と教育の質を高めるため、全力で東京歯科大学大学院の発展に尽くすつもりです。

現在、大学院を取り巻く環境は大学院設置基準

による枠組みの中で、中央審議会や大学基準協会などからの制度改革を受け、目まぐるしく変化し続けております。しかし、大学院の目的は優れた研究指導者および歯科医学研究に精通した高度専門職業人としての歯科医師を養成することであり、これは大学院開設の目的で現在も不変です。

制度改変と大学の水道橋移転という一大行事の中で、私に課せられた課題は東京歯科大学大学院生の研究、教育ならびに専門医療臨床の質を損なうことなくより発展させることかと考えます。幸い先人たちの熱意により高まった研究・教育・臨床という三本柱はそのまま継承し、水道橋という新しい場に合わせて改善すべき点を見直します。特に研究の場はかなり限定されてしまいますが、負の中にも正が存在するわけで、創意工夫により

新しい研究の道が開けるかと考えます。大学院生の研究に対する興味と高度専門歯科医療人となるべく意欲をいかに長く持続できるかが重要かと思っております。私はその環境作りを整備することが使命かと考えております。

本大学院を創立された先人の意をくみ取り、大学院の志を高めるために、研究・教育の質を高め、伝統ある東京歯科大学の明日を担う人材育成に傾注したいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

■口腔科学研究センター所長就任のご挨拶



石原 和幸

6月1日付で口腔科学研究センター長を拝命しました。本センターは、平成8年度に設立されて以来着実に発展し多数の成果を挙げてきています。移転とともに新しくスタートするセンターで必要とされていることとしては、研究環境の整備、研究費獲得システムの構築および若手研究者の育成があると思います。本年度の移転とともに大学全体の研究システムが変わり、各講座の研究室で行われていた研究がすべて口腔科学研究センターの共有実験スペースで行われるようになります。幸いにも本センターは、前任の井上センター長の時に事務部も加わりこれに対応できる組織に

なりつつあります。まず当面は今の研究を環境の変化のロスなく発展させていけるように対応を急ぎたいと思っています。従来までそれぞれの講座で行っていた研究を共同実験室で行うことにより混乱が起こることが予想されるものの、プロジェクト間で接触が生まれることにより新たな共同プロジェクトの発生する可能性が増大します。これを、従来のコア研究等の研究支援システムを利用し、大学を代表するようなプロジェクトへと展開するとともに、それによって複数の大型研究費を獲得できるように展開することを支えることができるようにしたいと考えています。また、近年、短期間にその研究費に見合う研究成果を要求される場合が増えてきています。そういった環境で若い研究者が育つためには、経験のある研究者とともにそれを乗り越えるためのキャリアパスが必要であり、それを提供するための環境としての役割も持つ必要があると考えています。これらの目標は容易ではないのですが皆様の協力により可能になると思いますので何とぞ協力の程よろしくお願い申し上げます。

■図書館長就任のご挨拶



松久保 隆

この度、6月1日をもちまして図書館長を拝命いたしました。創立123年の歴史を有する本学には、時を超えて歯科医学発展の過程を鮮明に物語る数々の歴史的な貴重書や貴重史料が図書館・史料室に保管され、閲覧に供されています。図書館

の年間の入館者は58,000名、貸出冊数は12,000を越え、本学の中でも最も活用されている施設となっております。前任期の3年間には通常の任務に加えて、大学機能の水道橋移転にともない図書館機能が水道橋本館、新館、さいかち坂校舎、千葉校舎、市川総合病院の5箇所に分散するため、それぞれの図書館の機能のあり方を検討し、その設定に対応した移転準備と作業を関連教職員の方々の協力をいただきながら進めてまいりました。本年9月以降からは、それぞれの図書館の特徴を活かした効率的な運営を行わなければなりません。昨年度から開館したさいかち坂校舎図書室の利用頻度は高く、とくに閲覧室やグループ学習室が大いに活用されております。本館および新館

においても大学院生や教員の研究活動や学生の自主学習に利用できるスペースと設備が準備されております。

図書館の業務は、本学の歴史的史料の収集、整理および保存ならびにそのデジタル化などの管理運営、学生、大学院生や教員などの利用者への学習・研究のための講習会の実施、研究資料の提供、機関リポジトリによる本学学術情報の発信など業務の多様化は今後ますます進むものと考えられま

すが、特に、図書館の重要な業務として本学の教育・研究・臨床領域の歯科医学情報を発信するセンター的な機能があり、これを具体的に進める必要があります。優秀で熱意のある図書館職員ならびに図書委員会の委員の先生方の協力を得て図書館の業務を遂行してまいります。是非、全学の教職員皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

■教務部長就任のご挨拶



河田 英司

この度2期目の教務部長を拝命いたしました。12年間副部長を勤めさせていただき、前期から教務部長を務めさせていただいております。東京歯科大学のみならず歯科大学を取巻く環境は大きく変化する中で、責任と職務の重大さを感じながら、ただただ現状を維持することで3年間を務めてまいりました。大きく反省いたしております。

ご案内のように、歯科大学が抱える大きな問題として、歯科医師の過剰問題を理由に合格率が下げられている歯科医師国家試験と歯科大学受験生人口の減少があります。本学は学生の努力、教職員一丸となつての努力で高い国家試験合格率を維持し、受験生も確保することが出来ております。「東京歯科大学は大丈夫」という声が聞こえてきますが、何の根拠もない声です。現状の歯科医師国家試験は成績上位者から順番に採っていく入学試験と全く同じで、他よりも一点でも多くとらなくては合格しません。他の大学は東京歯科大学をターゲットにし、本学の教育手法を真似しさらに改善しております。「今まで通りで大丈夫」といった、ちょっとした気のゆるみ、驕りで状況はすぐに悪くなってきます。今一度初心にかえり、皆で考えそれぞれの立場で目標を達成したいと考えております。現状を維持するには相当の努力が必要

です。

文部科学省をはじめとする競争的資金の獲得には、今まで通り積極的に参加していきたいと考えております。今ある大学教育・学生支援推進事業の支援を受けての「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成」のプログラムなど、今まで獲得した事業については地道ではありますが確実に継続しております。現代GPで構築したe-Learningのように皆様の協力、積極的な参加がなければ無意味なものとなってしまいます。学生が望む、効果的な学習に役立つコンテンツ作りに努めてまいります。

入学してくる時点での学生の学力には大きな差があります。各々の学生にあった学習法で夫々がレベルアップし、歯科医学を習得することが理想です。そのためには、学生の能力、生活面等を把握することが最も重要で、正しい尺度で学生を評価し、個に応じた指導が最も効果を生むと考えております。しかし現状ではかなり困難ですが、サポート体制をさらに充実させ、知識だけでなく態度も含め、出来得る限りそれに近づけるようにしたいと考えております。本学の教育は一部の教員、職員の努力で維持し向上させるのではなく、東京歯科大学全教職員が同じ認識の下、学生に接していただきたいと思ひます。

教職員のFD、SD。隣接医学教育カリキュラムの充実・強化など多様な課題がありますが、充実した水道橋での教育を実施するため、片倉、山本、平田、望月の各教務副部長、菅沼教務課長をはじめとする教務課職員とともに一致協力して職責を全うしたいと考えております。全学の教職員の皆様の一層の御支援とご協力をお願いして就任のあいさつとさせていただきます。

■学生部長就任のご挨拶

佐藤 亨

5月開催の教授会において、3期目の学生部長を拝命することになりました。重責に改めて身の引き締まる思いであります。これまで、金子 譲前学長、井出吉信学長の下で2期6年間学生部長を務めさせていただきましたが、この経験を生かし任務を全うしたいと思います。

振り返ればこの6年間は、学生に禁煙の啓蒙を促し、指導して参りました。6年前に比べると、学生の喫煙率もかなりの減少傾向にあると思います。しかしながら、歯学部学生の喫煙率が高いという悲しい現況もあります。

また、大学周辺に住んでいる学生の中には寝間着か見分けのつかないスエット姿で通学する者もいます。生活態度や服装の乱れなどは、上級生に

なるにつれ少しずつ改善されてきているようですが、歯科医師を志す者としてはまだまだです。

平成25年9月の水道橋新校舎開校に合わせて、千葉校舎から3・4年生の学生が水道橋に移転します。

今後は公共の交通機関内で、世間の目に触れる機会が多くなりますが、生活態度や服装が改善されることを期待しております。また、喫煙に関しても、千代田区全域が路上喫煙禁止区域となっていますので、移転により禁煙する学生が増えることを期待しております。

今回の移転に伴い、一人暮らしの学生の居住エリアも広い地域に分散するようです。従来、親御さんからの通報で学生課職員が下宿先まで足を運ぶケースもありました。しかし今後はなかなか難しいと考えます。よりお子さんとの連絡を密にとって頂きたいと思います。

新人事において、学生部副部長に新谷誠康教授が再任され、古澤成博教授、森田雅義准教授、杉原直樹准教授が新任副部長に就任しました。学生の指導に努めると共に、教務部や学年主任、副主任と連携し、万全の体制で学生の指導にあたって参ります。

■法人役員の選任

本年5月31日をもって柳澤孝彰副学長、安藤暢敏市川総合病院長が寄附行為規定役職の任期満了により定年退職を迎えられ、同時に理事もご退任された。

法人役員の選任並びに常務理事の業務分掌について、平成25年5月30日(木)開催の第683回理事会並びに第233回評議員会にて、下記の通り決定された。

記

1. 学校法人東京歯科大学寄附行為施行細則の改正(常務理事の業務分掌)

[旧]第8条 常務理事は、それぞれ学務、財務、庶務、建設、人事及び校友に関する業務を分掌する。ただし、兼務を妨げない。

[新]第8条 常務理事は、それぞれ学務、財務、庶務、病院、建設、人事及び校友に関する業務を分掌する。ただし、兼務を妨げない。

この施行細則は、平成25年6月1日から施行する。

2. 常務理事の選任並びに業務分掌について

病院担当常務理事：水野 嘉夫 理事 就任日：平成25年6月1日

常務理事	業務分掌
金子 譲 理事長	総括
井出 吉信 理事	学務・建設・人事
熱田 俊之助 理事	校友
水野 嘉夫 理事	病院
石井 拓男 理事	財務・庶務

3. 寄附行為第8条第2項に規定する理事の選任について

理事：西田 次郎 教授 任期：平成25年6月1日～平成26年5月31日

西田 次郎 理事の略歴



西田 次郎

昭和32年4月22日生

昭和51年 3月 和歌山県立桐蔭高等学校卒業
 昭和59年 9月 長崎大学医学部卒業
 昭和59年11月 第78回医師国家試験合格
 昭和59年11月 医籍登録(第287392号)
 昭和59年11月 日本医科大学第3内科研修医(昭和60年4月まで)
 昭和60年 5月 慶應義塾大学医学部内科研修医(昭和62年4月まで)
 昭和62年 6月 東京歯科大学市川総合病院内科助手(平成元年4月まで)

平成元年 5月 慶應義塾大学医学部消化器内科助手(平成3年6月まで)
 平成 3年 7月 米国アリゾナ大学医学部解剖学講座留学(平成6年10月まで)
 平成 5年 9月 学位受領(医学博士 慶應義塾大学)
 平成 6年11月 東京歯科大学市川総合病院内科助手(平成7年5月まで)
 平成 7年 6月 東京歯科大学市川総合病院内科講師・部長代理(平成10年9月まで)
 平成10年10月 東京歯科大学市川総合病院内科助教授・部長代理(平成11年3月まで)
 平成11年 4月 東京歯科大学市川総合病院内科助教授・部長・講座主任代行(平成13年9月まで)
 平成13年10月 東京歯科大学市川総合病院消化器科助教授・部長(平成13年10月まで)
 平成13年11月 東京歯科大学市川総合病院消化器科教授・部長(平成24年3月)
 平成22年 6月 東京歯科大学市川総合病院副院長(平成25年5月まで)
 平成22年 6月 学校法人東京歯科大学評議員(現在に至る)
 平成24年 6月 東京歯科大学内科学講座主任教授(現在に至る)
 平成24年 4月 東京歯科大学市川総合病院内科部長・消化器内科部長(現在に至る)
 平成25年 6月 東京歯科大学市川総合病院院長(現在に至る)
 学校法人東京歯科大学理事

■法人評議員の選任

平成25年5月30日(木)開催の第683回理事会において、下記の通り法人評議員が選任された。

記

・寄附行為第20条第2項第1号に規定する評議員(歯科衛生士専門学校長)

井上 孝

任期：平成25年6月1日～平成28年5月31日

・寄附行為第20条第2項第2号に規定する評議員

石井 拓男 菅沼 弘春 田崎 雅和 水野 利彦 矢島 安朝

任期：平成25年6月1日～平成26年3月31日

■副学長退任のご挨拶



柳澤孝彰

平成25年5月31日をもって、任期満了に伴い副学長および学校法人理事の職を退任いたしました。平成22年6月に副学長を拝命して以来大過なく職責を全うできましたことは、偏に故井上裕元理事長、熱田俊之助前理事長、金子謙理事長・前学長ならびに井出吉信学長をはじめとする法人役員の方々のご信任、および教職員各位の絶大な協力ご支援があったればこそと、心より感謝申し上げます。

顧みますと、昭和40年満18歳で入学して以来、ほぼ50年間、私の人生の75%を本学で過ごさせていただいたこととなります。大学院修了後、アメリカ合衆国NIDR, NIHから招聘され、また大学のご好意により長期海外出張者として研究生活を送っていましたが、本学の稲毛移転に伴って大学命により3年目の契約を途中解約し帰国しました。その後、本学の機構改革により旧病理学第一講座と旧組織学講座が合体して誕生した口腔超微構造学講座の初代主任教授として、また歯科衛生士専門学校の教務部長時代には推薦入学制度の導入、大学院教務部長時代には学位論文審査形式の改革、更に大学院研究科長時代には北里大学（現在は慶應義塾大学）を主幹とする「がんプロフェッショナル養成プラン」に加わるなど、大学、大学院、衛生士学校の運営に力を注いでまいりました。

一方、教育はもちろんのこと、研究にも力を注ぎその成果の一端を企業と共同して我が国初のキシリトールガムを開発し社会に還元しました。この研究には故田熊庄三郎名誉教授が発見した齲蝕病巣で発現している再石灰化現象が根源にあったことは言うまでもありません。更に再石灰化の促進が齲蝕の発生を抑制すること、初期の齲蝕であれば自然修復させることが可能なことなどを明らかにしてまいりました。これらのことは我が国のみならず、アジア諸国で評価され、中華人民共和

国、大韓民国、中華民国、タイ、ベトナム、インドネシアの国々から要請を受けて複数回ずつ訪れ、それぞれの国の大学における歯学部や研究者に、更にこれらの国の市民に対しても公開講演を行い、それぞれの国における齲蝕の減少に貢献してきたと自負しております。これまで私の行ってきた教育と研究に対し種々ご援助ご協力下さいました教室員はじめ諸先生方ならびに諸氏に深甚なる謝意を申し上げます。

最後になりますが、本学はメインキャンパスを水道橋に移転いたします。本学は伊皿子から水道橋へ、そして水道橋から稲毛へと移転のたびに飛躍的に発展してまいりました。今回の移転も必ずや本学が更に発展すること間違いないと確信しております。金子理事長、井出学長の下、教職員が一丸となって発展に向け邁進されますことを祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。

略歴

学歴・資格

昭和40年 3月 東京都立小松川高等学校卒業
 昭和40年 4月 東京歯科大学入学
 昭和46年 3月 東京歯科大学卒業
 昭和46年 4月 東京歯科大学大学院歯学研究科入学
 (病理学・口腔病理学専攻)
 昭和46年 5月 第49回歯科医師国家試験合格
 歯科医籍登録 第59179号
 昭和50年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
 歯学博士の学位受領
 (東京歯科大学 第405号 (甲185号))

職歴等

昭和50年 4月 東京歯科大学助手 (病理学第一講座)
 昭和51年 4月 東京歯科大学講師 (病理学第一講座)
 昭和54年 4月 アメリカ合衆国NIDR, NIH出張
 昭和56年12月 東京歯科大学助教授 (病理学第一講座)
 平成元年 6月 東京歯科大学歯科衛生士専門学校教務部長
 (2期6年)
 平成 3年 4月 東京歯科大学教授 (病理学講座)
 平成 4年 6月 東京歯科大学大学院教務部長
 (平成16年～, 2期6年)
 平成 5年 4月 東京歯科大学口腔超微構造学主任
 平成 7年 6月 東京歯科大学学術出版部長
 平成10年 6月 東京歯科大学国際渉外部長
 平成16年 6月 東京歯科大学教養科目協議会幹事
 平成19年 6月 東京歯科大学大学院歯学研究科長
 平成22年 6月 東京歯科大学副学長
 平成25年 5月 東京歯科大学副学長の任期満了により定年退職

賞罰

平成 7年 3月 Hard Tissue Biology Award 受賞
 (硬組織生物学会)

■市川総合病院院長退任のご挨拶



安藤 暢 敏

5月末をもちまして病院長を退任し、東京歯科大学市川総合病院を定年退職いたしました。2001年に本学に着任し、その後の12年間の後半6年間を病院長の任にあたりました。在任中大過なく職責を全うできましたことは、ひとえに菅、西田、濱野三副院長をはじめ、院内各職域および大学の皆様よりいただきましたご支援の賜と、厚くお礼申し上げます。

病院長就任当時の市川総合病院は、診療報酬マイナス改訂の影響もあり2年連続赤字という財務状況にありました。これに対し社中一致で医療経費の削減など収支改善に励んだ結果、病院の財務状況は同年度末には黒字回復を示し、新たに採用したDPC包括制度の追い風も受け、以後堅調に推移するようになりました。同時にこの病院をブランド力、体力を備えた一流の病院にすることを目標に掲げ、とくにソフト面の強化、充実に力を注ぎました。その一貫として画像配信システムの導入によるフィルムレス化や、新電子カルテシステムへの更新を図りました。また2008年に市川総合病院は、東葛南部医療圏をカバーする地域がん診療連携拠点病院の指定を受けることができました。病院長2期目スタートの2010年には、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム (NST)、呼吸ケアチーム (RCT)、摂食・嚥下サポートチームなどを中心に、チーム医療の推進をスローガンに掲げました。この流れは院内広く認知され、職域横断的なチームワークを高めました。

このように各種院内整備が着々と進むなかで、2011年3月に2回目の病院機能評価更新審査を受け、前回に引き続き無条件完全合格という快挙をなすとげました。受審後一息つく間もない翌週の3月11日に、東日本大震災が発生しました。この震災により市川総合病院が被った物的被害は軽微でしたが、その後の合計6回の計画停電では、思いが

けずに大きなダメージを受けました。病院の非常用電源のパワー不足のために、休日への振り替え診療、振り替え手術などのできる限りの対応策を講じましたが、診療規模は通常の15～20%減少しました。このような非常時のなかで変則的な診療態勢に黙々と取り組み、心をつ一つにして乗り切った市川総合病院の底力には心感感激しました。

掲げた目標を共有し、心をつ一つにしてそれに向かい、目標を達成するのがこの病院の得意技です。退任に際しその感が一層強くなりました。市川総合病院はなお発展途上で、進化しつつあります。これからも次の目標を掲げ、共有し、それに向かい、それを達成し続けていただきたいと思います。

略歴

学歴

昭和40年 4月 慶應義塾大学医学部入学
昭和46年 3月 慶應義塾大学医学部卒業
昭和54年 3月 医学博士の学位受領 (慶應義塾大学 第1029号)

職歴

昭和46年 5月 慶應義塾大学医学部訓練医 (外科)
昭和49年 5月 慶應義塾大学助手 (医学部外科学)
昭和52年 7月 済生会神奈川県病院外科出向
昭和53年 4月 慶應義塾大学助手 (医学部外科学)
平成 2年 4月 慶應義塾大学専任講師 (医学部外科学)
平成12年10月 慶應義塾大学助教授 (医学部外科学)
平成13年 4月 東京歯科大学教授 (外科学講座主任)
市川総合病院 外科部長
平成16年 6月 東京歯科大学 市川総合病院 副院長
平成19年 6月 東京歯科大学 市川総合病院 病院長
東京歯科大学 理事
平成21年 4月 慶應義塾大学医学部客員教授 (外科学)
平成25年 5月 東京歯科大学 市川総合病院 病院長退任
平成25年 6月 国際親善総合病院 病院長補佐 現在に至る

学会における活動

(学会 理事、評議員歴)

理 事 日本食道学会 (2003～、理事長 2011～)、
日本消化器外科学会 (2006-2012)、
日本消化器関連学会機構JDDW (2008-2012)、
評議員 日本外科学会、日本消化器外科学会、日本胸部外科学会、
日本癌治療学会、日本臨床外科学会、
日本外科代謝栄養学会、日本気管食道科学会、
日本腹部救急医学会、日本食道学会、
日本創傷治療学会

その他

(班研究 研究員歴、委員歴)

昭和55年 厚生省がん研究助成金 固形がんの集学的治療の研究班 (現在 消化器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究班) 班員 (平成23年まで)
平成 6年 同 JCOG食道がんグループ代表者 (平成23年まで)
平成元年 厚生省がん研究助成金 頸胸境界部食道がんの治療法に関する研究班班員 (平成5年まで)
平成 7年 科学技術庁 放射線医学総合研究所 重粒子線がん治療臨床研究班 班員 (平成12年まで)
平成21年 厚生科学審議会専門委員 (平成25年まで)

学内ニュース

■名誉教授の推薦

平成25年5月14日(火)の第613回教授会において、本学名誉教授規程に基づき、本年5月31日付で定年退職される柳澤孝彰教授を名誉教授に推薦することが了承された。これを受け、平成25年5月30日(木)開催の第683回理事会において平成25年6月1日付の推薦が承認された。

■第295回東京歯科大学学会例会開催

平成25年6月1日(土)千葉校舎において、第295回東京歯科大学学会例会が開催された。口演31題は第1・2教室で、示説8題は第2ラウンジを会場として各々発表された。午後1時から2時まで第1教室において、本学歯周病学講座の衣松高志講師と朝日大学歯学部総合医科学講座麻酔学分野の後藤隆志助教による学長奨励研究賞受賞講演が行われた。引き続き午後2時10分から4時20分まで同教室において4教授による以下の特別講演が行われた。

1. 「骨格筋における可塑性の解明を軸とした研究体系」

阿部伸一 教授(東京歯科大学解剖学講座)

2. 「継承と発展－素粒子論と宇宙論の120年－」
望月隆二 教授(東京歯科大学物理学研究室)

3. 「唾液ペプチドと米ペプチドの抗菌・抗内毒素作用」

加藤哲男 教授(東京歯科大学化学研究室)

4. 「市川総合病院脳卒中センターにおける摂食・嚥下機能評価と口腔ケアの重要性」

野川 茂 教授(東京歯科大学市川総合病院神経内科、市川総合病院脳卒中センター)

また、11商社の参加による商品展示が第1ラウンジで行われた。

■実験動物供養祭開催

平成25年6月14日(金)午前10時40分より、千葉校舎基礎棟1階の第2ラウンジにおいて、平成25年度実験動物供養祭が執り行われた。

供養祭は、廣徳院住職の読経に始まり、石井拓男副学長が祭文を奉読され、歯科医学の教育・研究に生命を捧げた動物諸霊に対し哀悼と感謝の意を込め、教職員、大学院生、臨床研修歯科医、第3

学年学生全員が順次焼香を行い、滞りなく終了した。



祭文を奉読する石井副学長＝平成25年6月14日(金)、千葉校舎基礎棟第2ラウンジ

■第124回歯科医学教育セミナー開催

平成25年6月24日(月)午後6時より、千葉校舎第4教室において、第124回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「『クリッカー』を含めた新たな能率的学習手法について」と題し、平成24年度に採択された「私立大学教育研究活性化設備整備事業」により、さいかち坂校舎第1講義室と千葉校舎第4教室に設置した、クリッカーシステムについて教務副部長の平田創一郎教授より説明がなされた。

まずはじめに、クリッカーシステムの現況は、出席の取得、プレポストテストの解答結果の把握、OMT (One More Time) クリッカーボタンの活用の3つで運用されていると報告があった。特にOMTクリッカーボタンは学生が押すことにより、理解できなかったところを教員に伝えることができ、インタラクティブな授業進行を可能にしたとのことであった。また、プレポストテストの解答結果を瞬時に確認できるようにすることによって、リアルタイムな学生理解度の把握に有効であり、そのデータをCSVに出力することにより、細かな分析にも使用できると説明があった。

つぎに、実際に参加者がクリッカー端末に教職員証をセットしたうえで、出席やプレポストテストの実施と問題作成ソフトの説明、OMTボタンを体験して、その都度表示される画面やCSVデータについて説明が行われた。現在、実施されている学年が第1,2,6学年生だけということもあり、

初めて触れる参加者が多く、自身が実施する際に有効に活用しようと真剣に説明を聞いていた。

最後に今後については、既に立ちあがっている平成25年度教育ワークショップの作業部会委員を中心に、グループ単位での学習の促進や学生個々の積極性・能動性・協調性をさらに伸ばして行こうという方向で検討を重ねて行くが、それぞれが実施していく中で気付いた点があったら、意見をいただき、全学的にコンセンサスを得たうえで教育にあたり、最終的には学生主導型の教育スタイルへの転換を目指して行きたいとのことであった。



説明する平田教務副部長：平成25年6月24日（月）、千葉校舎第4教室

■平成25年度第2回水道橋病院教職員研修会開催

平成25年6月25日（火）午後6時より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成25年度第2回水道橋病院教職員研修会が開催された。

まず、水道橋病院内科の仁科牧子准教授による「最近の感染症」について講演があった。仁科准教授は日本における感染症の現状について説明し、ワクチン接種の重要性について述べられた。日本の予防接種制度は、いわゆる先進国の中では



講演する仁科准教授：平成25年6月25日（火）、水道橋校舎13階ルームB

最も遅れている。現在、風疹が流行しているが、その感染者の多くは20代から40代の大人が多い。それは国のワクチン政策の転換で、子どもの頃にワクチン接種を受けなかった「谷間の世代」と呼ばれる人達である。また、風疹の他にも流行性耳下腺炎や、B型肝炎、肺炎球菌（成人）のワクチン接種は、欧米では政府が実施し、費用も公費負担だが、日本では幼児期を外れると個人に委ねられ、費用も原則自己負担になることが説明された。仁科准教授はワクチンの接種を勧めるとともに、これら感染症に罹患した時の対応について述べ、医療人として感染症の対応についての重要性を強調された。

続いて、水道橋病院放射線科の相澤光博診療放射線技師による「放射線画像オーダについて」と題した講演が行われた。相澤技師は、水道橋病院の病院情報システムの概要に触れ、放射線画像オーダに関連するシステムの注意点について説明した。水道橋病院の病院情報システム導入が終了し、放射線科関連のシステムは、放射線科情報システム（Radiology Information System；RIS）、画像保存通信システム（Picture Archiving and Communication Systems；PACS）と放射線オーダシステムの3つが敷設され1年半が経過した。それまでの使用経験から間違えやすいオーダや操作方法の注意点を述べ、水道橋病院における運用の再確認を行った。また、近年個人情報取り扱いの難しさが注目されていることから、他院での流出事故の事例を紹介し、デジタル情報は便利である反面、一度に大量に情報が漏えいすることや、漏洩しても気づきにくい点をあげ、その管理の重要性を述べた。医療情報システムは、情報の共有を行うことによって質の高い医療を提供でき



講演する相澤診療放射線技師：平成25年6月25日（火）、水道橋校舎13階ルームB

る医療従事者同士のコミュニケーションツールであることを訴え講演を終了した。

今回の講演内容は、最新の感染症情報を認識すると共に、新しい病院情報システムの運営を確認することができる大変有意義な研修会となった。

■市川総合病院平成25年度緩和ケア研修会開催

がん診療連携拠点病院では、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を毎年開催することが義務付けられていることから、昨年に続き5回目の研修会を平成25年6月16日(日)・23日(日)の両日に開催された。

がん診療連携拠点病院が行う緩和ケア研修会は、院内だけではなく地域の医療従事者も対象にすることから、学外の勤務医・開業医に対しても県や医師会・歯科医師会を通して広く募集を呼び掛け実施された。

参加者は学内外から医師13名、歯科医師4名、薬剤師1名、看護師6名、の合計24名と参加者に対して、7名のファシリテーターを迎えての研修会となった。

研修会の内容は、講義とロールプレイ、ワークショップで構成されており、講義では「緩和ケア概論」や「がん性疼痛」、「呼吸困難」、「消化器症状」、「精神症状(抑うつ、せん妄)」、「コミュニケーション」について解説され、「疼痛事例検討」や「オピオイドを処方するとき」、「コミュニケーション」、「地域連携」ではグループ討議やロールプレイが熱心に行われた。緩和医療は患者やその家族の辛さに焦点が当てられているが、がん診療を行っている医療者のケアも重要な要素である。今回のような研修会は、日常のがん診療、特に疼痛緩和などで困っている医師に対しては極めて有



講義風景：平成25年6月16日(日)、市川総合病院2階講堂

効であることから、今後もがん診療連携拠点病院としての役割を担って行く。



グループ演習風景：平成25年6月23日(日)、市川総合病院2階講堂

■第3回千葉病院ロビーコンサート 午後のリサイタル開催

平成25年6月29日(土)午後2時30分より、千葉病院1階待合ロビーにて、第3回ロビーコンサートが開催された。

今回は初夏の歌声コンサートと題し、本学の同窓である門平忠一郎さん、竹元ゆうきさん、及び東京歯科大学歯科衛生士専門学校にて勤務されていた中井麗子さんをお迎えし、「さっちゃん」、「翼をください」、「荒城の月」等の様々な楽曲が演奏された。

当日は、75名の方々が集まり、初夏の訪れを感じさせる爽やかな歌声に耳を傾け、盛大かつ和やかにコンサートは終了した。



コンサート終了後の記念写真：平成25年6月29日(土)、千葉病院1階ロビー

大学院ニュース

■第368回大学院セミナー開催

平成25年6月6日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第368回大学院セミナーが開催された。今回は、本学同窓で慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学教室教授の中川種昭先生を講師にお迎えし、「これまでの研究成果とこれからのことー多くの方に助けられ、支えられー」と題した講演を伺った。

講演では、先生の留学で得られた経験を中心に話された。また、これまでの研究成果についても話され、多くの方の協力により研究が出来たことへの感謝を述べられた。

東京歯科大学大学院時代は、伝統的教室主義を出て微生物学講座において歯周病ワクチン開発の基礎的研究をし、基礎研究の論理的思考と技術を学びその後留学して研究する上で大変役立ったこと。さらに米国留学時には研究のみならず知見をひろめ視野を広めたことから、大学院生に対し機会があれば是非留学することを勧められた。慶應義塾大学に赴任後は大学院を設置し大学院生を指導することにより、臨床研究のみならず幹細胞の基礎的研究に幅をひろげ、大学院生は京都大学の山中研究室や慶應義塾大学の岡野研究室で大いなる成果を上げていることを紹介された。

今回のセミナーを通じて、大学院生が研究を進めていく上での多くの示唆が得られた。当日は、100名弱の参加があり、大変活気のあるセミナーであった。



講演される中川先生：平成25年6月6日(木)、千葉校舎第5教室

■第369回大学院セミナー開催

平成25年6月17日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第369回大学院セミナーが開催された。今回は、千葉大学大学院医学研究院薬理学教授の中谷晴昭先生をお招きして、「不整脈の診断治療をめぐる最近の進歩」と題した講演を伺った。

中谷先生が本学で講演されるのは平成14年以来2回目である。今回の講演では、これまでの抗不整脈薬の概念を変えなくてはならない事柄について重点的に解説された。端的には従来のNaチャンネル遮断作用をもつ薬物(リドカイン、プロカインアミド)は予後不良ばかりか、むしろ死亡率を高めること、Kチャンネル作用遮断薬(アミオダロン、ニフェカラン)が評価されていること、イオンチャンネル遺伝子異常が、先天性QT延長、ブルガダ症候群を引き起こす原因となること、さらに、心房細動治療では、心原性脳塞栓症を予防するために抗凝固薬を用いるが、種類が拡大しておりワルファリンだけでなくダビガトラン、リバーロキサバン、アピキサバンが新薬として用いられているので歯科治療時には出血傾向に注意を要することが解説された。講演終了後、活発な質疑応答がなされ、診療・教育の面での知識の再構築に大変有意義なひと時であった。



講演される中谷先生：平成25年6月17日(月)、千葉校舎第2教室

■第370回大学院セミナー開催

平成25年6月20日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第370回大学院セミナーが開催された。今回は、九州大学大学院歯学研究院 分子口腔解剖学分野の久木田敏夫教授を講師にお迎えし、「骨破壊担当細胞/破骨細胞の多核化を制御する：安全・安定な骨再生への新戦略」と題した講演を伺った。

久木田教授は、細胞の融合メカニズムを解明し、医療への応用を目指されている研究者である。講演は、まずiPS細胞の発明から始められ、細胞融合という先生の研究本題に入られた。生体内では限られた細胞が細胞融合により分化を完遂する。骨を吸収する破骨細胞もこの1つで、造血幹細胞に由来する単核の前駆細胞同士が融合して形成される巨細胞である。この破骨細胞は骨改造の主要な役割を演ずる細胞であるが、関節リウマチ、歯周病などによる骨吸収の原因細胞であり、癌の骨転移にも大きな意義を持つ細胞とされ、これを止める研究はトランスレーショナルリサーチとして重要であることを示唆された。先生が注目されたこのテーマでは、破骨細胞形成因子RANKLがすでに多くの知見があるものの、その前駆細胞の融合機構については不明な点が多かった。先生は、融合の鍵となる膜表面分子であるDC-STANMを見出され、また、免疫系の細胞同士が相互作用を

行う際には、細胞間的高速かつ特異的な情報伝達にトンネル状のナノチューブを介して行われ、破骨細胞前駆細胞の融合においてもその関与を明らかとされた。そして、先生はDC-STAMPがこのナノチューブを介して細胞間を移動している現象を発見された。今後RANKL抗体を用いた治療により、歯周病を始めとする多くの患者の治療に貢献されることが期待される。今回のセミナーを通じて、大学院生が研究を進める上でも多くの示唆を、また、大学における研究拠点の形成の必要性、さらに研究が臨床に生かされるトランスレーショナルリサーチの活性化の必要性も痛感させて頂けた。今回は、大学院生のみならず、医局員も多く参加し、講演終了後にも多くの質問がなされ大変活気の有るセミナーとなった。



講演される久木田先生：平成25年6月20日(木)、千葉校舎第5教室

移転関係報告

平成25年6月6日

教職員への移転関係報告 (14)

教職員 各位

理事長 金子 讓
学 長 井出 吉信

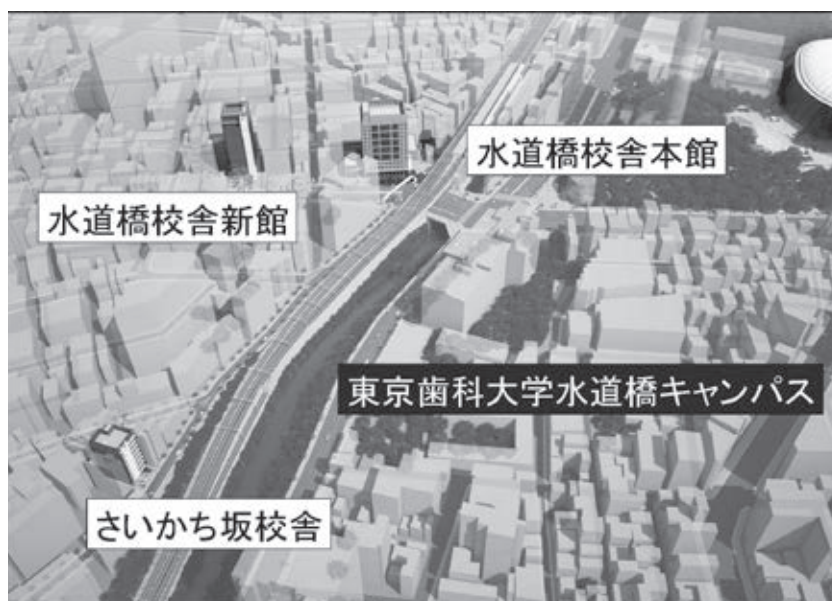
水道橋キャンパスの校舎名について

水道橋キャンパスの校舎名称が決定しましたので、お知らせいたします。

水道橋キャンパス

- 水道橋校舎本館
- 水道橋校舎新館
- さいかち坂校舎

教職員各位におかれては、今後とも移転計画の推進にご理解ご協力をお願いいたします。



トピックス

■熊澤海道助教 第51回日本小児歯科学会大会 奨励賞を受賞

平成25年5月23日(木)・24日(金)に岐阜市の長良川国際会議場で開催された第51回日本小児歯科学会大会において、小児歯科学講座の熊澤海道助教が大会奨励賞を受賞し、受賞講演を行った。

受賞演題は「Effect of single-dose amoxicillin on rat incisor odontogenesis : a morphological study (Amoxicillinが歯の形成に及ぼす影響)」である。乳幼児期に罹患した疾患の治療にペニシリン系の抗菌薬 Amoxicillin を処方された既往のある小児において、しばしば永久歯エナメル質に色調異常や実質欠損を伴う形成異常が出現することが報告されている。しかし、本剤がエナメル質形成不全を引き起こすメカニズムについては未だ明らかでない。本研究は、ラットに Amoxicillin を投与した場合に、歯の形成に起こる変化について形態学的に検討し、Amoxicillin 投与によりラット切歯象牙質において石灰化障害を引き起こすことを明らかにした。本研究は、歯科臨床の場で広く使用されている β -ラクタム系抗菌薬と歯の形成障害との関連性を示し、今後の研究の発展への期待と小児歯科学の向上に寄与する可能性が評価されたことから、今回の受賞に至った。



新谷誠康教授(左)、高野博子先生(右)と受賞した熊澤助教(中央)：平成25年5月24日(金)、長良川国際会議場

■色川大輔レジデント 日本歯周病学会最優秀臨床ポスター賞を受賞

平成25年5月31日(金)から6月1日(土)にタワーホール船堀(東京都江戸川区)で行われた第56回春季日本歯周病学会学術大会で、歯周病学講座の

色川大輔レジデントが臨床(認定医・専門医)ポスター部門において最優秀臨床ポスター賞を受賞した。本賞は、学術大会臨床ポスターとして発表された症例の中から特に優れたもの1題に対して授与されるものである。色川レジデントは「シクロスポリンおよびシルニジピンによる歯肉増殖を伴う慢性歯周炎の一症例」と題する発表を前回大会(第55回秋季学術大会、つくば市)で行い、選考の結果、今回の受賞となった。本大会では賞状と副賞が授与された。

全身状態に問題を抱える歯周炎患者が増加する中で、薬物関連の歯肉増殖症への対応は重要となっている。今回の症例は、免疫抑制剤およびCa拮抗薬が関連した歯肉増殖に対し、非外科的歯周治療を中心に対応し、改善をみたものである。全身状態のため薬剤の変更が不可能であった歯肉増殖症例に対し、的確な診断のもと、歯周治療の基本である炎症性因子の除去ときめ細かいメンテナンスに対応し、著明な改善が維持されていることが高く評価された。尚、今回の学術発表に基づく論文は日本歯周病学会誌に掲載される予定である。



受賞した色川レジデント(左)と齋藤教授：平成25年6月1日(土)、タワーホール船堀、受賞ポスター前

■第24回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会開催(大会長：石上恵一教授、実行委員長：武田友孝准教授)

初夏の爽やかな風が代々木の森にそよぐなか、第24回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会が6月29日(土)、30日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。

一昨年、日本歯科医学会と協働で日本体育協会

公認のスポーツデンティストの養成が決定されましたが、スポーツ歯学はフィールドワークが主役の実践的歯科医学であり、これからの日本スポーツ歯科医学会が担う活動が養成の重要な鍵となっていくことに鑑み、今回の学術大会のメインテーマは「スポーツ基本法・スポーツ宣言日本におけるスポーツ歯科医学の使命!」とし、我々の役割を再認識し、知識をさらに高める大会となるように願い、掲げさせていただきました。

今回の企画講演のひとつ、元プロ野球選手であり、現在野球解説者等でご活躍の工藤公康氏に「諦めない心・限界を作らない生き方」というテーマで特別講演をいただきました。工藤氏のお人柄がうかがえる内容で、歯とスポーツの関係にも触れて下さり、一同にとり楽しく興味深いお話をさせていただきました。

本学術大会は東京、国立オリンピック記念青少年総合センターという場所的なことも反映してか、大会参加人数も一般講演数も過去最高となり、研修会では223名と定員を超える会場から溢れんばかりの参加を頂き、大会長として喜ば



大会長挨拶をする石上教授：平成25年6月29日（土）、国立オリンピック記念青少年総合センター



大会長の石上教授（中央左）、実行委員長の武田准教授（中央右）と大会スタッフ一同：平成25年6月30日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センター

しいかぎりでした。また、会員懇親会も本学学長の井出吉信先生をはじめとし関東周辺の各歯科医師会の会長先生やその関係の先生方等をご来賓としてお招きさせて頂き本学会の先達の先生方に思いを馳せ、さらに会員同士の親睦を図り開催させて頂いたところ例年以上に盛況となりました。そして、福岡ソフトバンクホークスの取締役会長 王 貞治氏より本大会開催によせ、メッセージを頂戴いたしましたことは 我々の今後の活動の大きな励みになろうかと思えます。

今回の大会では、これまで以上に会員の方々の交流を深めつつ、テーマにふさわしい成果を取め、成功裏に幕を下ろすことが出来ました。

（スポーツ歯学研究室教授 石上 恵一）

■三島 攻先生(平成23年度大学院卒) 日本スポーツ歯科医学会学術論文賞を受賞、及び石上恵一教授 同学会学会賞を受賞

平成23年度大学院卒業のスポーツ歯学研究室三島 攻先生が平成25年6月29日（土）から30日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第24回日本スポーツ歯科医学会学術大会において、平成24年度International Journal of Sports Dentistryの国際誌に掲載された論文が最優秀論文として学術論文賞を受賞し賞牌と賞金を贈呈された。

受賞論文は、「Effect of Clenching and Pinching Force on Activation of Cortex Involved in Motor Brain Activity : an fMRI Study」である。本論文は、咬合力と脳機能との関係をみた研究論文でありクレンチング運動の強度の違いが脳神経活動に及ぼす影響を運動に関わる皮質領域に焦点を当てfMRIを用いて検討したもので、臨床につながる内容とし



受賞した三島先生（右）と石上教授：平成25年6月29日（土）、国立オリンピック記念青少年総合センター

て高く評価されたことから今回の受賞に至った。

また、石上恵一教授は昨年度の第23回の本学会において「競技中の噛みしめによる咬合負担の軽減のためのスプリント使用効果—某女子プロゴルファーの場合—」と題した発表で学会賞を受賞。これは、ドライバーやアイアンショット時に常に臼歯部に噛みしめを感じ、特にドライバーショッ

ト時に強い噛みしめを自覚している某女子プロゴルファー選手への対応について、これまでに報告してきたクレンジングによる歯の歪への対応に関する教室の研究成果を実際にフィールドで実践したところ、研究成果が臨床に生かされた報告となり高く評価されたことによる受賞となった。

長期海外出張者報告

■解剖学講座 講師 松永 智

平成24年4月1日より平成25年3月31日までの1年間、カナダのアルバータ大学およびミゼリコルディア病院iRSM (Institute of Reconstructive Sciences in Medicine) へ長期出張させていただきました。本稿ではその概要についてご報告させていただきます。

アルバータ大学のあるエドモントンは、カナダ中部に位置するアルバータ州の州都であり、同州のバンフやキャンモアは世界的に有名な観光地として知られています。私はアルバータ大学とその関連病院であるミゼリコルディア病院iRSMに所属し、共同研究と医系ファブリケーションを勉強いたしました。ミゼリコルディア病院iRSMは、アルバータ大学医学部教授である Johan Wolfaardt 先生を中心に組織された、顎顔面欠損患者における再建と骨伝導インプラントを用いた補聴のスペシャルチームです。私はiRSMの研究ラボである Medical Modeling Research Laboratory (MMRL) とアルバータ大学工学部にデスクをおき、「Bio-mechanical optimization of implant design for bone conduction amplification (BCA)」、「Digital Study of Fibular Anatomy」および「Analysis of the anatomy of maxillary sinus using 3D computed tomography」という3つの研究を立ち上げ、進めてまいりました。アルバータ州倫理委員会から患者のメディカルCTデータを使用する許可を受けてすでに3か年計画の方針が承認されており、各計測および解析のための3Dモデル作製が現在も行われており、カナダと日本の双方で解析が進められております。

これらの研究と同時に、世界最先端の「医療系ファブラボ」であるミゼリコルディア病院MMRL

にて、臨床および研究用として応用が可能である3Dリコンストラクションテクニックを勉強してまいりました。医療系ファブラボとは、北米・ヨーロッパで強力に推し進められている新しいシステムで、3Dプリンタをはじめとするファブリケーションツールを駆使して、患者一人一人に最適なオーダーメイド治療の実現を目指すものです。医療においてはデジタルテクノロジーの飛躍的進歩による患者一人一人に最適な医療器具、手術方法の選択につながり、3D技術を駆使したより精度の高い診断とプレオペレーションが医療の質を大きく底上げします。また医師、歯科医師のみならず、看護師、衛生士、技工士、言語聴覚士、デザイナー、アーティストがタッグを組むスペシャルチームにより、患者の精細なデジタルデータから一度は失った顔貌を回復させる過程は、まるで魔法のように素晴らしいものでした。

出張期間中には、当大学の学生7名が、エレクトイブスタディとしてアルバータ大学を訪れました。ミゼリコルディア病院のOsswald先生による講義とケースプレゼン、ディスカッションは学生だけでなく私も非常に勉強になりました。また、

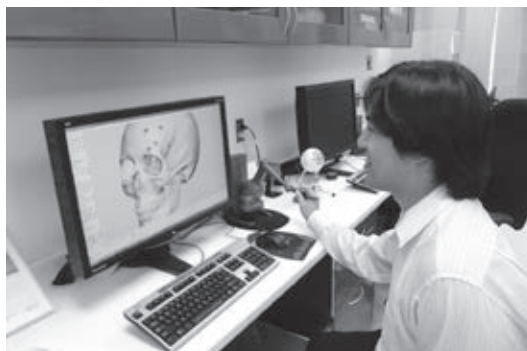


Wolfaardt教授(右)とともに:ミゼリコルディア病院MMRL前にて

Wolfaardt教授とともにSan Diegoで行われたAdvanced Digital Technologyに関するミーティングに参加する機会を得ることができました。世界的にも医工連携、歯工連携の大きな波が来ていることを実感するとともに、多くの企業がビジネスチャンスを見出しており、産学連携の機運がますます高まっていることを再確認することができました。今後、この留学で獲得した知己や知識、アイデアを、東京歯科大学のさらなる発展のために生かしていくことができればと考えております。

このような貴重な出張の機会を与えていただきましたことを、金子 譲理事長、井出吉信学長ならびに阿部伸一教授に厚く御礼申し上げます。また、出張中すべての面で力添えをいただきました

た、解剖学講座の皆様に重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



ラボにて3Dデータを加工中。近い将来、歯科医療にアプリケーションテクニクが必須になる日が来るかもしれない。

図書館から

■「学外からの電子ジャーナルアクセスが可能に：学認」について

かねてよりあった「自宅から電子ジャーナルを見たい」という要望を受けて、国立情報学研究所の「学術認証フェデレーション」、通称「学認」に加盟した。「学認」は電子リソース（電子ジャーナルやデータベース）を利用する大学、電子リソースを提供する出版社等で構成された連合体であり、専用の認証サーバーを用意することでサービス提供が可能となる。

現在のところ、「ScienceDirect」「Scopus」「Springer LINK」「CiNii」「Journal Citation Reports」の利用が可能となっている。利用にはユーザー登録が必要なため、下記URLを確認の後、登録申請をしていただきたい。

<http://www.tdc.ac.jp/lib/gakunin.php>

■阿部潤也閲覧係長 私立大学図書館協会東地区部会2013年度研修分科会にて講演

平成25年6月5日(水)、専修大学サテライトキャンパススタジオAにおいて開催された私立大学図書館協会東地区部会2013年度研修分科会にて、阿部潤也閲覧係長が講演を行った。第1回目のテーマは「機関リポジトリについて知る」と題した内容である。本学でも進めている機関リポジトリの普及、推進のための講演であり、参加者多数となり好評であった。



講演する阿部潤也閲覧係長：平成25年6月5日(水)、専修大学サテライトキャンパススタジオA

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 大宮歯科衛生士専門学校(学生33名、教員2名)
平成25年6月13日(木)解剖学実習室、千葉病院見学

■海外出張

- 薬師寺 孝講師(口腔外科学)
北京大学口腔医学院口腔顎顔面外科学において、頭頸部の手術技術取得ならびに同大学における歯科医学教育についての研究のため平成25年6月1日(土)から11月26日(火)まで中国・北京へ出張。
- ピッセン弘子教授(水病・眼科)
フランクフルト大学にて会議および講演、26th International Congress of German Ophthalmic Surgeons (第26回ドイツ眼科手術学会)に出席および講演のため、平成25年6月9日(日)から17日(月)までドイツ・ニュルンベルグへ出張。
- 新谷誠康教授、米津卓郎講師、泉水祥江助教、熊澤海道助教、中内彩乃大学院生、江木勝彦大学院生、荒野泰子臨床専門専修科生、米倉智子臨床専門専修科生(小児歯科学)
The 24th IAPD 2013 SEOUL (The 24th Congress of International Association of Paediatric Dentistry)に出席、および発表のため、米倉智子臨床専門専修科生は通訳として出席のため、平成25年6月11日(火)から16日(日)まで韓国・ソウルへ出張。
- 隅田みゆき助教(水病・口腔健康臨床科学 小児歯科学分野)
The 24th IAPD 2013 SEOUL (The 24th Congress of International Association of Paediatric Dentistry)に出席、および発表のため、平成25年6月11日(火)から16日(日)まで韓国・ソウルへ出張。
- 石原和幸教授(微生物学)
University at Buffalo, The State University of New York, 50th Anniversary of UB Oral Biology Graduate Programにおいて出席、および発表、共同実験打合せのため、平成25年6月11日(火)から16日(日)までアメリカ・バッファローへ出張。

- 齋藤 淳教授、今村健太郎大学院生、備前島崇浩大学院生(歯周病学)
University at Buffalo, The State University of New York, 50th Anniversary of UB Oral Biology Graduate Programにおいて出席、およびポスター発表、会議参加のため、平成25年6月11日(火)から18日(火)までアメリカ・バッファローへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖学・国際交流部長)
コロンビア大学においてElective Studyの打合せのため、平成25年6月17日(月)から20日(木)までアメリカ・ニューヨークへ出張。
- 音成実佳講師、今泉昌子助教(歯科放射線学)
The 19th International Congress of Dento-Maxillo-Facial Radiologyにおいて出席、および発表のため、平成25年6月22日(土)から29日(土)までノルウェー・ベルゲンへ出張。
- 末石研二教授、西井 康助教、小林弘史大学院生、村瀬千明レジデント(歯科矯正学)、吉田奈央子レジデント、須田永子レジデント(水病・口腔健康臨床科学 矯正歯科学分野)
Eos 2013 89th Congress of the European Orthodontic Society (第89回ヨーロッパ矯正歯科学会)に出席、および発表のため、末石研二教授、西井 康助教、村瀬千明レジデントは平成25年6月24日(月)から7月1日(月)まで、小林弘史大学院生、吉田奈央子レジデント、須田永子レジデントは平成25年6月23日(日)から7月1日(月)まで、アイスランド・レイキャビクへ出張。
- 田中一郎教授(市病・形成外科)
12th International Facial Nerve Symposium (第12回国際顔面神経シンポジウム)に出席、および発表のため、平成25年6月27日(木)から7月3日(水)までアメリカ・ボストンへ出張。
- 片倉 朗教授(オーラルメディスン・口腔外科学)、佐藤一道講師(口腔ガンセンター)
留学のための事前打合せのため、平成25年6月30日(日)から7月3日(水)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。

大学日誌

平成25年6月

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 (土) | 第295回東歯学会(例会) | 5 (水) | 臨床検査運営委員会(市病) |
| 3 (月) | 千葉病院辞令交付式
学務役職者辞令交付式
学長就任式
臨床研修管理小部会
防火・防災安全自主点検日 | 6 (木) | 6年生臨床研修マッチング説明会(総合学力試験終了後)
カルテ指導委員会
第368回大学院セミナー
感染制御委員会(市病)
ICT委員会(市病) |
| 4 (火) | 全体教授会[於：水道橋校舎]
3・4・5・6年生健康診断
人事委員会(水病) | 7 (金) | 情報システム管理委員会
口腔健康臨床科学講座会(水病) |
| 5 (水) | 6年生第1回総合学力試験(~6日)[於：水道橋校舎]
リスクマネジメント部会
ICT会議
輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会 | 10 (月) | 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
医局長会
臨床教育委員会
総合講義検討委員会 |

10 (月)	医療安全管理委員会(市病) 病院長就任挨拶(市病)	20 (木)	部長会(市病) 診療録指導委員会(水病)
11 (火)	臨床教授連絡会		医療安全管理委員会(水病)
12 (水)	大学院運営委員会 大学院研究科委員会 褥瘡対策委員会(市病) 救急委員会(市病) ICU運営委員会(市病) リスクマネジメント部会(水病) 薬事委員会(水病)	23 (日)	感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)
13 (木)	千葉校舎課長会 業務連絡会 高度・先進医療委員会 手術室運営委員会(市病)	24 (月)	緩和ケア研修会(市病) 電子カルテシステム運用管理委員会(市病) NSTカンファレンス(市病) 教職員研修会(水病)
14 (金)	実験動物供養祭[於：千葉校舎] ICLS講習会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)	25 (火)	薬事委員会 データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会 医療サービスに関する検討会
15 (土)	歯科衛生士専門学校説明会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 患者サロン(市病)	26 (水)	大学広報編集委員会 糖尿病教室(市病) 糖尿病ケアチームカンファレンス(市病) 衛生委員会(水病) データ管理者会議(水病)
16 (日)	緩和ケア研修会(市病)		病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病)
17 (月)	学生部(課)事務連絡会 第369回大学院セミナー 医療安全研修会	27 (木)	教養科目協議会[於：さいかち坂校舎] 管理診療委員会(市病)
18 (火)	医療連携委員会	28 (金)	全体課長会[於：千葉校舎] 災害対策実施部会(市病)
19 (水)	CPC(市病)	29 (土)	千葉病院ロビーコンサート
20 (木)	第370回大学院セミナー 機器等安全自主点検日		

平成26年度東京歯科大学入学試験要項

推薦入学選考（一般公募制）

募集人員 約45名（指定校制推薦を含む）
（全募集人員128名中）

（趣旨）

人物・学力ともに優秀で、歯科医療担当者としての能力・適性について高等学校長が責任をもって推薦するもので、本大学への入学を強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。

1. 平成25年3月高等学校卒業者または平成26年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

選考内容

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕
- (3) 面接

出願期間

平成25年11月1日（金）から平成25年11月5日（火）
（期間内必着のこと）

選考日・選考会場

選考日 平成25年11月9日（土）

- 選考会場
- 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18
 - 2) 大阪会場 TKP新大阪ビジネスセンター
大阪府大阪市淀川区西中島5-13-9
新大阪MTビル1号館4階
 - 3) 福岡会場 TKP博多駅前シティセンター
福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1
日本生命博多駅前ビル8階

合格通知日

平成25年11月12日(火) 夕刻

入学手続平成25年11月14日(木)から平成25年11月22日(金)
正午まで**帰国子女・留学生特別選抜****募集人員** 若干名(全募集人員128名中)

(趣旨)

帰国子女または日本に留学しようとする外国籍を有する外国人で、本大学において歯科医学教育を受けることを強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

(出願資格)

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または平成26年3月31日までに修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成26年3月31日までに18歳に達する者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で平成26年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で平成26年3月31日までに18歳に達する者。

選考内容

次の試験を日本語で行う。

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語(英語)、数学、理科(物理・化学・生物から1科目選択)〕
- (3) 面接

出願期間平成25年11月1日(金)から平成25年11月5日(火)
(期間内必着のこと)**選考日・選考会場**

選考日 平成25年11月9日(土)

- 選考会場
- 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18
 - 2) 大阪会場 TKP新大阪ビジネスセンター
大阪府大阪市淀川区西中島5-13-9
新大阪MTビル1号館4階
 - 3) 福岡会場 TKP博多駅前シティセンター
福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1
日本生命博多駅前ビル8階

合格通知日

平成25年11月12日(火) 夕刻

入学手続平成25年11月14日(木)から平成25年11月22日(金)
正午まで**一般入学試験(Ⅰ期)****募集人員** 約50名(全募集人員128名中)**試験内容**

(1) 学力試験

- ①外国語(英語:英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。)
- ②数学(数学:数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B。なお、数Bは[数列]と[ベクトル]を出題範囲とする。)
- ③理科(物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。なお、出題範囲は下記のとおりとする。)
 - ・物理:物Ⅰ、物Ⅱ〔ただし、学習指導要領に示された物理Ⅱのうち以下のものを除く「(3)物質と原子」の「イ 原子、電子と物質の性質」、「(4)原子と原子核」〕
 - ・化学:化Ⅰ、化Ⅱ
 - ・生物:生Ⅰ、生Ⅱ〔ただし、学習指導要領に示された生物Ⅱのうち以下のものを除く「(3)生物の集団」〕

(2) 小論文

(3) 面接

※大学入試センター利用試験(Ⅰ期)を併願する者は、一般入試(Ⅰ期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験(Ⅰ期)の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成25年12月17日(火)から平成26年1月28日(火)
(郵送の場合、必着)

(平成25年12月28日(土)から平成26年1月4日(土)
の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わな
い。)

試験日・試験会場

試験日 平成26年2月2日(日)

- 試験会場
- 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18
 - 2) 大阪会場 TKP新大阪ビジネスセンター
大阪府大阪市淀川区西中島5-13-9
新大阪MTビル1号館4階
 - 3) 福岡会場 TKP博多駅前シティセンター
福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1
日本生命博多駅前ビル8階

合格通知日

平成26年2月5日(水) 夕刻

入学手続

平成26年2月6日(木)から平成26年2月14日(金)
正午まで

大学入試センター利用試験(Ⅰ期)

募集人員 13名(全募集人員128名中)

出願資格

平成26年度大学入試センター試験を受験した者
で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

(1) 平成26年度大学入試センター試験を受験す
る際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目
外国語	「英語(リスニングを除く)」
数学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目
理科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目

※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

- (2) 小論文
- (3) 面接

※一般入試(Ⅰ期)を併願する者は、一般入試
(Ⅰ期)の「小論文」「面接」試験の受験
をもって大学入試センター利用試験(Ⅰ
期)の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成25年12月17日(火)から平成26年1月28日(火)
(郵送の場合、必着)

(平成25年12月28日(土)から平成26年1月4日(土)
の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わな
い。)

試験日・試験会場

試験日 平成26年2月2日(日)

- 試験会場
- 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18
 - 2) 大阪会場 TKP新大阪ビジネスセンター
大阪府大阪市淀川区西中島5-13-9
新大阪MTビル1号館4階
 - 3) 福岡会場 TKP博多駅前シティセンター
福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1
日本生命博多駅前ビル8階

合格通知日

平成25年2月5日(水) 夕刻

入学手続

平成26年2月6日(木)から平成26年2月14日(金)
正午まで

一般入学試験(Ⅱ期)

募集人員 約15名(全募集人員128名中)

試験内容

(1) 学力試験(出題範囲は一般入試(Ⅰ期)と
同様とする。)

- ①外国語(英語)
- ②数学/理科(数学・物理・化学・生物のうち
1科目を試験場で選択する。)

(2) 小論文

(3) 面接

※大学入試センター利用試験(Ⅱ期)を併願す
る者は、一般入試(Ⅱ期)の「小論文」「面
接」試験の受験をもって大学入試センター利
用試験(Ⅱ期)の「小論文」「面接」試験にか
える。

出願期間

平成26年2月18日(火)から平成26年3月4日(火)
(郵送の場合、必着)

(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成26年3月8日(土)

- 試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成26年3月11日（火）夕刻

入学手続平成26年3月12日（水）から平成26年3月19日（水）
正午まで**大学入試センター利用試験（Ⅱ期）****募集人員** 5名（全募集人員128名中）**出願資格**

平成26年度大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

(1) 平成26年度大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目
外国語	「英語（リスニングを除く）」
数学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目
理科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目

※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

(2) 小論文

(3) 面接

※一般入試（Ⅱ期）を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間平成26年2月18日（火）から平成26年3月4日（火）
（郵送の場合、必着）

（土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

試験日・試験会場

試験日 平成26年3月8日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18**合格通知日**

平成26年3月11日（火）夕刻

入学手続平成26年3月12日（水）から平成26年3月19日（水）
正午まで**編入学試験A****募集人員** 若干名

（編入年次）

第2学年4月に編入

（出願資格）

次のいずれかを満たす者とする。

① 4年制大学卒業者または平成26年3月卒業見込の者

② 医療技術系短期大学を卒業した者または平成26年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・
歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・
作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③ 4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち
数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。**試験内容**

(1) 小論文

(2) 小テスト（英語・数学・理科の基礎知識
問題）

(3) 面接（グループ面接・個人面接）

※学士等特別選抜Aを併願する者は、編入学試験Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間平成25年11月1日（金）から平成25年11月5日（火）
（期間内必着のこと）**試験日・試験会場**

試験日 平成25年11月9日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18**合格通知日**

平成25年11月12日（火）夕刻

入学手続平成25年11月14日（木）から平成25年11月22日（金）
正午まで**編入学試験B****募集人員** 若干名

（編入年次）

第2学年4月に編入

（出願資格）

次のいずれかを満たす者とする。

① 4年制大学卒業者または平成26年3月卒業見込

の者

- ②医療技術系短期大学を卒業した者または平成26年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

- ③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

- (1) 小論文
 (2) 小テスト(英語・数学・理科に関する基礎学力テスト)
 ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択。
 (3) 面接(グループ面接・個人面接)
 ※学士等特別選抜Bを併願する者は、編入学試験Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成26年2月18日(火)から平成26年3月4日(火)
 (郵送の場合、必着)
 (土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成26年3月8日(土)
 試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
 東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成26年3月11日(火) 夕刻

入学手続

平成26年3月12日(水)から平成26年3月19日(水)
 正午まで

学士等特別選抜A

募集人員 若干名(全募集人員128名中)
 (入学年次)

第1学年4月に入学
 (出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

- ①4年制大学卒業者または平成26年3月卒業見込

の者

- ②医療技術系短期大学を卒業した者または平成26年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

- ③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

- (1) 小論文
 (2) 小テスト(英語・数学・理科の基礎知識問題)
 (3) 面接(個人面接)
 ※編入学試験Aを併願する者は、編入学試験Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成25年11月1日(金)から平成25年11月5日(火)
 (期間内必着のこと)

試験日・試験会場

試験日 平成25年11月9日(土)
 試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
 東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成25年11月12日(火) 夕刻

入学手続

平成25年11月14日(木)から平成25年11月22日(金)
 正午まで

学士等特別選抜B

募集人員 若干名(全募集人員128名中)
 (入学年次)

第1学年4月に入学
 (出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

- ①4年制大学卒業者または平成26年3月卒業見込の者
 ②医療技術系短期大学を卒業した者または平成

26年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・
歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・
作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

- (1) 小論文
- (2) 小テスト(英語・数学・理科に関する基礎学力テスト)

※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択。

- (3) 面接(個人面接)

※編入学試験Bを併願する者は、編入学試験B

の「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成26年2月18日(火)から平成26年3月4日(火)
(郵送の場合、必着)

(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成26年3月8日(土)

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成26年3月11日(火) 夕刻

入学手続

平成26年3月12日(水)から平成26年3月19日(水)
正午まで

入 学 金	600,000 円	(入学時のみ)
授 業 料	3,500,000 円	
歯学教育充実費	4,300,000 円	(入学時のみ)
施 設 維 持 費	1,000,000 円	
合 計	9,400,000 円	

【訂正】

第 260 号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。

36 頁 東京歯科大学広報 編集委員 (誤) 狩野龍二 → (正) 藤倉隆行

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 王子田 啓 椎名 裕 中村弘明
日塔慶吉 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行 前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹
(平成25年6月現在)



編集後記

平成25年6月1日。井出吉信学長が再任されました。

金子 謙理事長と共に、次なる3年間、新しい水道橋の地で学長の任にあたられます。

6月3日に千葉校舎の講堂で行なわれた学長就任挨拶の中に、「それぞれの立場から、自ら考え、積極的に意見を出し合っていくなかにかこそ、大学の発展がある。指示を待っていても前には進まない。」との言葉がありました。

東京歯科大学は、そこにいる全員が一体となって築いていく大学。その初心に回帰すること。かつて、血脇守之助先生の熱い思いに、学生たちはもちろんのこと、学内外の多くの人たちが、東京歯科のために努力することを選択したのでしょ。これがまさに、東歯の校風。

意見や立場が違う人たちを遠ざけるだけでは、何も生まれない。だからこそ、実際にその場に出向き、膝をつき合わせて、お互いの率直な意見を闘わせ、話を聞くという姿勢、聴く力が大切になってくるのでしょ。

一戸達也副学長の一文に、「大学にとって最も重要なカスタマーは学生である。」と記されています。学生たちは、厳しくも楽しい学生生活を過ごす中で、ひとりの社会人として成長していき、いつか、東京歯科大学を卒業したことが、誇りに思えるようになっていく。

それが、将来、歯科のさまざまな領域を通して、それぞれの患者さんやスタッフ、周りの人たちに伝わっていくこと。ひとつの出会いが、大きなプラスの広がりを生んでいくとしたら…。今、頑張っている学生のひとり一人が、まさに、東京歯科大学の名前を広げていく、将来の大切な loyal customer なのです。

「自分たちの学校、自分たちの職場は、自分たちが良くしていくということが東京歯科の伝統」という言葉が響きます。

(広報・公開講座部長・橋本貞充)



血脇守之助先生のまなざしの中で、ゆっくと時間をかけて、東京歯科大学の若者たちは、次の世代の歯科医療を担う人材に育っていきます。新しい水道橋育ちの歯科医師たちは、30年後の水道橋の校舎をどんな思いでみているのでしょうか。千葉の校舎から水道橋の校舎へ。バトンがしっかりと手渡されます。